

# 子育て支援プログラム「あそびの森」実践報告<15>

## —平成29・30年度実施プログラム—

杉山章<sup>1</sup>・浅野秀男<sup>2</sup>

(東海学院大学人間関係学部子ども発達学科<sup>1</sup>)

(東海学院大学短期大学部幼児教育学科<sup>2</sup>)

### 要 約

平成29・30年度に実施した子育て支援プログラム「あそびの森」の実践報告をする。短大部と四大部で別々の取り組み方をした3・4年目である。H29年度の取り組みとして、本学が立地している各務原市からの依頼で、地域の大学生や高校生による子育て支援活動に参加したことを中心に報告する。

**キーワード： 子育て支援 保育実習 地域貢献**

#### 1 「あそびの森」について

子育て支援プログラム「あそびの森」は、平成16年度から続けられてきている教育・保育者養成のための本学独自の実践プロジェクトである。体験的な学びにより学生の実践力を高めていく、フィールド学習の充実が求められる今日的な教育改革の一環として創設されたものである。これまでの本プログラムの歩みについては、「実践報告(14)」でその概略を振り返った<sup>1</sup>ので、そちらを参照していただきたいが、29・30年度の活動では、これまでの本学7号館の保育実習室(この部屋のことも一般には「あそびの森」と呼んでいる)中心に展開してきた活動を離れ、各務原市の子育て支援イベントへの参加をメインとして実践したので、主にその経緯について報告する。

#### 2 各務原市からの依頼

平成29年5月に、本学が立地する各務原市から、7月に実施する市主催の子育て支援活動「親子ふれあいフェスタ2017」への参加依頼を受けた。地域貢献、子育て支援という観点から、参加することが適当であるという判断に至った。

##### 2.1 各務原市主催の子育て支援活動「ちびっこ冒険広場」から「親子ふれあいフェスタ」へ

各務原市は、市民に対して様々な子育て支援を行って

いるが、本稿に関係がある幼児期から学童期の子どもやその保護者を主な対象とした子育て支援活動として、従来「ちびっこ冒険広場」があった。この活動は、平成27年度まで市職員や地域のNPO法人等の様々な団体の協力の元に行われてきており、本学子ども発達学科も毎年学生ボランティアを派遣してきた。保育士や幼稚園教員、小学校・特別支援学校教員を志す学生にとって、正規の保育・教育実習以外に、直接子どもやその保護者とかかわるよい機会であると捉え、教員も学生の様子を見に行くなどしていた。

その「ちびっこ冒険広場」の活動が、平成27年度をもって終了となり、ほぼ同じ年齢とその保護者を対象とした「親子ふれあいフェスタ2016」が、平成28年度には各務原市に立地する私立大学である中部学院大学に事務局を市から委託され、主催各務原市、企画・運営中部学院大学・同短期大学部、協力東海学院大学・同短期大学部というかたちで開催された。平成28年度は、年間3回に渡り実施された(図1)。

第1回(6/5)は、学びの森、中部学院大学各務原キャンパスで行われ、中部学院大学の学生をはじめ、東海学院大学・短期大学部、各務原高校理数科・英語科、各務野高校の学生・生徒や劇団風の子等によって活動が提供された。第2回(9/18)は、中部学院大学の学生、劇団風の子等により活動が提供された。第3回(11/8)は、中部学院大学の教員が中心となって活動が構成された。

表 1. 会議等の日にちと内容

日付	時間	場所・内容
5月23日	16:40~	中部学院大学各務原キャンパス 取組のねらい、メンバー自己紹介、 当日までのスケジュール、イベント紹介等
6月27日	9:30~	東海学院大学短期大学部 ポスター、パンフレット受取
7月3日	17:00~	中部学院大学各務原キャンパス 当日の日程確認、備品使用等の確認、 イベント内容・開催場所の確認等
7月9日	9:00~	各務原市学びの森、中部学院大学各務原キャンパス 「親子ふれあいフェスタ2017」当日
10月25日	17:00~	中部学院大学各務原キャンパス 取組に対する反省



図 1. 親子ふれあいフェスタ 2016 パンフレット

## 2. 2 「親子ふれあいフェスタ 2017」

「ふれあいフェスタ 2016」の成果と反省を踏まえて、平成 29 年度は、年に 1 回のみ行う活動として設定し、各参加団体が、より主体的な活動を集積されたものとして計画することとなった。主催は各務原市、企画・運営は中部学院大学で、参加団体として各務原市にある高等学校や大学などが参画することとなった。本学では、これを「あそびの森」プロジェクトとリンクさせるかたちで引き受けることとした。

各務原市子育て支援課からの依頼で、参加団体が集まる会議を開催以前に 2 回、終了後に 1 回行った。

会議等の日にちと内容については、以下の表 1 の通りであった。

## 3 「親子ふれあいフェスタ 2017」の実際の取り組み

以上のような経緯で 7 月 9 日各務原市の「学びの森」を主会場として「親子ふれあいフェスタ 2017」は実施された。(図 2・3)

当日は、スタッフの集合時間の 9 時と解散時間の 15 時に、全スタッフが集まり、事務局からの挨拶と諸注意等を受けた。前年度の傾向から、15 時の時間には、あ



図 2. 親子ふれあいフェスタ 2017 パンフレット (表)



図3 親子ふれあいフェスタ 2017 パンフレット (裏)



図4. ブースの位置

まり参加親子はいないという判断からであった。

なお、本学短大部と四大部のブースの位置は、学びの森会場にブースがあった方がよいと希望したこともあり、図4のような配置であった。四大部の学びの森会場におけるブースの位置は、学びの森南西に位置し、一番多くブースが設置されているメイン会場と考えられる中部学院大学の校舎(室内)から一番遠く、学びの森会場のトイレや水場からも一番遠い位置であった。

### 3. 1 本学の提供プログラム

提供したプログラムは、短期大学部「木と石でアクセサリを作ろう」、四大部「親子で楽しもう！手作りおもちゃで夏まつり」であった。それぞれについて報告する。

#### 3. 1. 1 短期大学部

活動名「木と石でアクセサリを作ろう」

実施日・会場

平成28年7月9日(日) 学びの森

9:30~15:00

ねらい

木や石を削ったり、磨いたりする。

担当 浅野秀男

参加人数 (子ども120名/保護者180名)

参加スタッフ 教員2名 学生3名

遊びや学生の様子・考察等

一般にワークショップと言われているものは、語意としては、仕事場、工房等を意味する。多くは、不特定多数の参加者と専門家による協働によって、創作活動や問題解決をするものと言っていいだろう。特に美術や芸術分野の活動が主になっている。ただ近年は、開催の目的によって多様なワークショップが行われている。各務原市の「親子ふれあいフェスタ」は、ワークショップへの参加によって、親子、家族のふれあいを深め、地域の活性化を図ることを目的に、毎年開催されている。本学も幼児教育学科と子ども発達学科がそれぞれのブースで参加した。今回、幼児教育学科のブースでは木と石を使って、ネックレスを制作した。木はサンドペーパーとナイフを使って「削るという作業」を、石はオニックスをキュービックな形に用意して「磨く」という作業を行った。どちらもかなり抵抗感がある作業である。例えば、石を水ペーパーで5段階の磨きをする作業は、行為としては単調な作業であり、抵抗感あり持続力が必要である。簡

単に言えば「根気」がいる。与えられた手順で容易に完成できる作業に対して、同じ行為を根気よく続けることが、今回の具体的な「ねらい」であった。不透明な石を何度も磨くことで、透明感が生まれる。抵抗感があるゆえに達成感も大きいといえる。

木と石、合わせて120人分用意したが、午後の早い時間になくなった。未経験の作業であり、物珍しさがあるのか、多くの子供たちや保護者の人達が参加して頂けた。子供たちは、石を、濡らしたサンドペーパーで磨き、その都度、初夏の光に透かして透明度を確認しながら、透明にすることに一生懸命になっていた。表情は真剣であり輝いていた。保護者の方も、子供たちを見守りながら、時に自身でも興味がわき自身の石を磨いた方もあった。

今回スタッフとして参加してくれた学生は、入学したばかりの1年生であった。最初は戸惑いもあったが、すぐに慣れ、子供たちとも保護者の方たちとも楽しそうに作業をしていた。保育士、幼稚園教諭の養成課程は、近年実習や実体験が重視されている。今回の学生達も、人に触れる良い経験をしたと思っている。ワークショップは楽しいことも大切であるが楽しさの内容はもっと大切だと考えている。新しい広い経験をすると共に、抵抗感のある作業を通して、達成感を体験して欲しいと考えている。

### 3. 1. 2 四大部

活動名「親子で楽しもう！手作りおもちゃで夏まつり」

実施日・会場

平成29年7月9日(日) 学びの森

9:30~15:00

ねらい

手作りおもちゃを親子で製作し作ったもので楽しむ。

担当 杉山章

参加人数 (子ども90名/保護者130名)

参加スタッフ 教員3名 学生9名(3年生、2年生)

遊びや学生の様子・考察等

季節は夏ということで、少し時期的には早い「夏まつり」をコンセプトにした。学生は3グループに分かれ、以下の4コーナーを設けた。学生スタッフは、グループごとに各コーナーを担当した。

学生との取り組みについては、次項で詳細に述べる。

#### ① 紙飛行機を作って飛ばそう！

折って作る紙飛行機ではなく、割りばしのボディ

一に、厚紙のパーツの羽を組み合わせて作る紙飛行機。羽の形を選択したり、羽に色を塗ったりして、オリジナルの飛行機を作成した。時間を決め3回の大会を開いた。

#### ② カラフルスライムを作ろう！

ホウ砂と洗濯のりを混ぜて「スライム」をつくった。ポスターカラーで自分の好きな色をつけた。少しヒヤッとして柔らかい感触は、心地よいものである。

#### ③ マイ花火を打ち上げよう！

一つの紙コップに切れ込みを入れ、その切れ込みに輪ゴムをかけ、もう一つの紙コップを重ねて手を離すとゴムの力で飛び上がる。それを花火に見立てた。紙コップに自分で好きなものの絵を描いてオリジナルの花火を打ち上げて遊んだ。高さのメモリを設置し、打ちあがる高さの目安を分かりやすくした。

#### ④ 金魚釣りをしよう

家庭用のビニルプールの中に、折り紙や画用紙で作ったカラフルなクリップ付き金魚を泳がせ、竿の先についた糸の先に磁石をつけて、金魚を釣る遊び。

以上のようなコーナーを中心にし、全体の統一感と「まつりの雰囲気」を出すために夏や祭りに関連するBGMをかけて、雰囲気をつくった。

結果的には、前述したようにたくさん子どもと保護者が参加した。学生スタッフも開始時間直後は、ゆっくりとした人の出だったが、12時の前後で人の出が増え、たくさんの親子の楽しそうに遊ぶ姿に満足したようであった。

### 3. 2 結果と反省

晴天に恵まれたこともあり、上述のように、短大部・四大部とも、大勢の親子に参加いただき、終日大変な盛況であった。しかしその反面として、日中に暑さへの対応をする時間や昼食をとる時間、またトイレの時間、ましてや、他のブースを参観し学習を深める時間等を適切にとることが難しくなり、スタッフとして参加した学生や引率教員にも体力的に過酷な実践、他ブースからの学びが難しい実践となってしまった。

このような取り組みは、参加する子どもたちや保護者、スタッフとして参加する学生、引率する教員、それぞれがwin-winの関係となることが望ましいと考えている。指導する教員が、学生の学びを明確にできる準備の必要

性を感じた。

課題を整理すると次のようになる。

- ① 時期：7月の第1週はかなり暑い時期になる。
- ② ブースの位置：メインの会場やトイレ、水場から離れた場所であるので、休憩等を適切にとる必要がある。
- ③ テントを張ったブース：太陽の位置により陽射しが強くなってしまいが、一度設置したブースは簡単に再設置できない。
- ④ ブース運営：参加学生でグループを作り、複数コーナーを設定し運営した。コーナーの内容は、教員が確認をしながら進めたが、基本的に学生の主体性に任せた。今回各コーナーの担当者は2~3名であった。学生の力量とコーナーの内容が乖離する可能性があることと、力量に相応であっても天候やブースの位置、ブースの担当人数等により、難しくなってしまうことが分かった。

また、全体の運営に関しても以下のような問題が浮かび上がった。

5月23日、6月27日、10月25日の準備及び反省の会議には、高校生、大学生も出席することになっていた。しかし、開催時間が夕方ということもあり、生徒が参加できない、しづらいことを訴える高校があった。

10月25日の反省会では、開催時期や開催時間について意見が交わされた。開催時期について、生徒や学生の主体的な参加が目的なら、年度の始めから取り組めるよう夏開催ではなく秋開催が適しているのではないかとの提案がなされたが、各高校大学の行事や授業等の都合もあり、すぐに結論を出すには困難であることが分かった。開催時間については、9時30分の開始時間は、親子の参加具合からも遠方から参加する学生の公共交通機関の都合（土日ダイヤ）から早いのではないかという意見が出された。

また、当日の岐阜地方の天気は快晴に近く、最低気温25.5℃、最高気温30.5℃の蒸し暑い日であった。本学からテントを短大部2張、四大部3張を持ち込み設置した。学びの森にはほところどころに大樹があり木陰ができる。木陰も活用してスタッフの休憩場所とした。しかし、長時間にわたって屋外で活動するには、少々困難な天候と環境であった。

#### 4 保育実習室「あそびの森」での活動

「親子ふれあいフェスタ」での活動とは別に、従来どおりの「あそびの森」室で行うイベントを1月20日(土)

午前中に実施した。

活動内容は節分に因むものとし、絵本の読み聞かせ、手遊びや歌などの全体活動と、「福笑い」「お面づくり」「鬼カードめくり」などのコーナー別の遊びとを展開した。

参加学生は9名、20組ほどの幼児と保護者が参加した。

#### 5 平成30年度の取り組み

平成30年度も前年度同様、7月第一日曜日の設定で、「親子ふれあいフェスタ2018」が企画された。上記の反省にもかかわらず、企画自体は、初年度とほぼ同様の内容であったが、本学提供のイベントでは、前年の反省を生かし、学生と教員の当日の負担を軽減するものとした。しかし、前年の猛暑とは打って変わった台風の到来による暴風大雨警報のために、実施が見送られる結果となった。実施プログラムとして計画したものは次回に持ち越すこととなったので、その具体的な内容等については、次年度にその詳細を報告することとする。

なお、「親子ふれあいフェスタ」の取り組み以外に、四大部では大学祭で保育実習室「あそびの森」において、プログラム「ダンボールで遊ぼう」を両日とも提供し、のべ97名の参加者があった。

「あそびの森」教室の利用状況と、それにかかわる今後の課題についても、次の報告で、詳細を検討したいと考えている。

#### 5 まとめ

子育て支援プログラム「あそびの森」が立ち上げられて15年が経過した。その間一貫して、教員・保育者を目指す学生の貴重な実践経験の場となってきたが、教員・保育者養成の在り方の変化に伴い、少しずつその形を変えてきている。

特にこの2年間は、各務原市の主催行事に参加するかたちで、地域との交流の在り方を模索してきた。平成31年度からは、新しい養成課程がスタートし、本プロジェクトのあり方も見直されて行かないわけにはいかないであろう。それでも、学生の実践力を高める本プログラムのような活動は、これからも不可欠なものと考えられる。さらなる充実を目指して取り組んでいきたい。

1 杉山章、杉山喜美恵、白山真澄、大蔵真由美

A Practical Report on the Program in Support  
of the Quality of Childcare in “Asobi no  
Mori”(A Play Room called “Forest for Play”)

Part 15

-Activities during the 29<sup>th</sup> and 30<sup>th</sup> years of  
Heisei-

SUGIYAMA Akira and ASANO Hideo